

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川宇子野950-25		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500038-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開業6日目になりました。建物や庭は入居者様が安心して生活して頂けるように、認知症ケアのノウハウを活かし、症状が緩和できるように工夫をしています。またスタッフには法人独自の研修を行ない「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を目標に、入居者様、ご家族様に満足して頂けるような良いケアを目指し取り組んでいます。そして地域の一員として交流の場を設けたり、地域の方々には認知症という病気を理解していただけるように日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高台にあり、各部屋の窓からは、雄大な山並みが見えている。利用者は、その雄大な自然に抱かれ、穏やかな満足のある生活を送っている。隣接するデイサービス利用者との交流や、敷地内の畑で野菜を作り、収穫と食べる楽しみを味わっている。地域は、高齢化が進み、若者が減少している。そんな中での夏祭りでは、住民と一体となって取り組み、盛大に開催している。この一大イベントには、里帰りの若者も参加している。住民は、福祉相談に訪れたり、防災の相互協力など、地域の一員として、根付いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を入居者様が送れるよう全職員が共有し、実践するよう努めている。理念を正しく理解できるよう新人研修などで説明している。	理念は「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」と、掲げている。利用者が、住み慣れた地域で、安心して暮らすことのできる支援をしている。職員会議やミーティング等で、理念の意義を理解し、全職員で共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として防災訓練や夏祭りなどの行事は一緒に参加するなど日常的に交流している。散歩時には地域の方に挨拶したり、農家の方に野菜をいただいたりしている。	地域の一員として、草刈りなどに参加をしている。毎年、高校の福祉学科の研修生を受け入れている。防災訓練や夏祭りは、地区との共催が恒例となり、地元の大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回夏祭りを地域の方と協力して実施している。準備には会議や盆踊りの練習などに参加して、当日は入居者様と関わって貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ご家族代表、銭亀区長、民生委員、福祉推進委員、行政などの出席を得ている。そこで入居者の生活、状況、行事、防災対策、地域行事などを話し合い、それらの意見をサービス向上に活かしている。	会議は、隔月に開催している。利用者の現状や行事予定などで、意見交換をしている。また、地域の高齢者の現状、災害対策等を話し合い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会、グループホーム部会、ケアマネ部会等に出席し、市の担当者とも連携が取れている。「子ども110番の家」の取り組みや2ヶ月に1回の介護相談員も受け入れている。	行政主催の研修会、連絡会議に参加している。各部会ごとに、課題を持ち寄り、意見交換会を行っている。今年度は、各事業所の職員による意見交換会を開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ、身体拘束はしていない。「禁止の対象となる具体的な行為」を全員で理解しながらケアに努めていきたい。	玄関の施錠は夜のみとし、自由な行動を見守っている。マニュアルを基に、具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。また、言葉による拘束がないか、接遇についての学習にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待防止に関する研修を実施しているが、入社後も継続的な虐待防止への意識を促している。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者様に任意後見制度を利用の方が見える。ケアマネ部会等で研修する機会があったので、制度について皆に伝えてケアに活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をとり、契約内容や制度等の説明を行い、理解・納得して頂けるよう働きかけている。また契約後も定期的に連絡をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して入居者様、御家族から面会時、電話連絡などで伺った意見・要望や、運営推進会議などの意見を運営に反映させている。	生活の様子を家族への手紙に載せて、家庭に送付し、意見や希望を求めている。訪問時にも意見を交換したり、電話、メールでも要望を聞いている。難聴者対策として、テレビ画面を字幕表示設定で改善している。	定期的に、預かり金の出納を、家族に確認してもらうことが望ましい。また、医療費控除に該当する領収書の送付にも期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は月2回のミーティングや面談、その他の機会などに把握し運営に反映している。	ミーティングでは、議題を設定して、意見や提案を討議している。定期的に、個人面談も行っている。服薬管理や勤務配置、イベント企画などで話し合い、運営や改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、適正等を把握し業務を任せている。個々の努力や勤勉性を認め、それに見合った地位や責任者として、仕事にやりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修プログラムを作成し、個々に合わせた研修に取り組んでいる。又プログラムについても定期的な見直しをしたり、法人外の研修の機会をつくり、サービスの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津川市グループホーム部会、県のグループホーム部会での定例会や研修会、勉強会等で交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談は、ご本人が話しやすい雰囲気を作り、困っている事等を良く聞いて信頼関係作りに配慮している。入居後は、スタッフ全員がご本人の不安な気持ちを察して、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に居室、リビング等を見学して頂いたり、入居相談表を使用し、ご家族からの情報を細かな部分も伺いながら思いを受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時には、問題の中から優先順位を見極め、サービスの提供を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりながれるグループホームの生活の中で、人生の先輩の入居者様から教えて頂く事、一緒に楽しむ事等で支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の絆を大切に、必要に応じて、ご家族に連絡をとり、面会に来て頂き、スタッフと共に入居者様を支えて頂ける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が今まで大切にしてきた、なじみの家具や食器等を持ち込んで頂いたり、馴染みの美容院、床屋、友人や親戚の方などとの関係が途切れないように、支援に努めている。	隣接するデイサービスの利用者と交流したり、訪問する友人や地元の人たちとの、関係づくりを大切にしている。電話の取り次ぎや、手紙のやりとりの手伝いなど、馴染みの関係が途切れないように役立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全員が居心地良く生活できる様、席の配置には気を配っている。ありのままに生活して頂けるようにしているが、様子を見てさりげなく入居者様の関係調節に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、入居者様の状況に合わせて、御家族と連携を取るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、一人一人の生活歴を把握し、ご本人の希望や、意向等を汲み取れるよう、センター方式を活用し、スタッフが情報を共有しながら、ご本人の意向を汲み取るよう努力している。	日常の場面で、思いや意向を把握している。困難な場合は、家族の協力を得ている。さらに、センター方式の手法も活用し、情報を共有しながら、利用者の希望に沿った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、御家族や在宅のケアマネからの情報も含め、ご本人様の生活歴や環境の情報収集を行なっている。入居後もご本人、ご家族からの情報を随時、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する入居者様の状態に対応できるようにスタッフ間で情報を交換しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人の表情や言動の原因把握に努め意見やアイデアを出し合い検討して介護計画を作成する。モニタリングで現状に即した計画になるよう努めている。	本人、家族の意向を把握し、職員や関係者で話し合い、介護計画を作成している。日々のモニタリングで、状態を把握し、健康の維持と精神的に安定すよう、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケアの実践、記録の中から気付いた事を、スタッフと話し合い、介護計画に反映、または社内の事例発表等につなげたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族のニーズに柔軟に対応できるように努力している。喫煙、飲酒の支援や携帯電話などの使用の支援もしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(夏祭り、演奏会など)や地域の方に、そうめん流しやどんと焼き等、子供やお年寄りとの交流を持って頂いている。美容院の方にも定期的に希望者が利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、入居者様、又はご家族によりかかりつけ医を選択していただき、ご家族による通院が基本となっている。協力医療機関にスタッフが付き添っている。	これまでのかかりつけ医を継続している利用者の通院は、家族が対応し、緊急時や家族の事情によっては、職員が付き添い、家族と連携し、適切な医療が受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が介護職員と協働している。受診時や必要時、病院との連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の現状と今後の予測できる状態について病院関係者と情報交換や相談等の連携に努め早期退院できるよう取り組みたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について、説明している。重度化し、終末期となった場合にはご本人、ご家族と話し合いを行い主治医や関係者で協力体制を検討していく。	重度化や終末期の方針は、契約時に説明し、同意を得ている。早い段階から、関係者で検討し、方針を決めている。終末期の対応では、主治医と家族、関係者が再度話し合い、柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、緊急時対応表を掲示している。また訓練時に三角巾で応急手当や、心肺蘇生法などの訓練を行なっている。今後も内外部の研修で実践力を習得したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や恵寿内で訓練を行い災害発生時の対応を強化したい。発電機も参加者全員も経験しCO2中毒注意の為、屋外で実施した。	年に2回、避難訓練を実施している。職員は、役割を分担し、通報、避難誘導などに取り組んでいる。地域の災害訓練にも参加している。今後の課題として、地域の協力体制づくりを検討している。	地域との協力体制は、どのような仕組みが可能か、地域関係者との話し合いに期待をしたい。また、災害の種別や夜間対応などをマニュアルに加えることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りやプライバシーに注意し入浴時や排泄時などには羞恥心に配慮した声掛けや対応をしている。個人情報にかかわるもの(記録やデータ等)の扱いはルールを徹底し、スタッフに周知してもらうよう努めている。	人生の先輩として、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。入浴やトイレ誘導では、プライバシーを守り羞恥心に配慮している。個人情報の取り扱いや接遇については、全職員で徹底し学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の持つ力に合わせた働きかけをし、出来る限り自己決定をして頂けるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務スケジュール以外は作成せず、散歩や余暇活動、畑作りや入浴時間など、入居者様のそれぞれのペースを大切にするケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、馴染みのある美容院に行って頂いたり、ご家族が散髪屋をされたりしてみえる。そういう方にはご家族への連絡、調整を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内のキッチンで入居者様の出来ることをやって頂きながら一緒に食事作りをしている。好き嫌いには食材を工夫しながら好みに近づけている。見た目もおいしそうに盛り付けを工夫している。	職員と一緒に、ホームの畑で野菜を育て、食卓を潤している。利用者もそれぞれの役割を担い、食事づくりに参加している。職員も同じテーブルで食事を摂り、得意な料理の話題で会話が弾んでいる。	食前の深呼吸や口や頬の運動は、咀嚼や嚥下筋力の機能を活性化するので、その取り組みに期待をしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回チェックして記録している。水分量は夏・冬を通して脱水に注意し、麦茶やスポーツドリンク、ゼリーなどで目先をかえている。食事が摂れない時は医師と相談してエンシュアなどを補充している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い記録に残している。口腔内や義歯などの不具合は協力歯科医などに受診をしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄時のサインを見極め、排泄パターンや習慣を把握し、ケアに活かすようにしている。一覧表をつくり活用することによりトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレ誘導をしている。紙パンツから布パンツへの改善も見られる。トイレでの排泄が習慣となって、自立につながり、夜間も同じように、声かけ誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分摂取、食事の工夫を行い、場合によっては医師と相談しながら排便コントロールをして、落ち着いた生活ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人の希望に応じて入って頂いている。頻度、時間は決めていない。入浴を拒む人にはタイミングを図り、声を掛けている。	入浴は毎日でもできる体制である。利用者の希望に添いながら、時には、チェアシャワーや、隣接デイサービスの足湯を利用している。利用者の状態や体力に合わせた入浴回数で、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼と夜の睡眠のリズムがとれてない時は、昼間は散歩したり、働きかけを行い夜間眠れるように支援している。リズムがとれている方は、昼寝は自由です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を把握できるよう処方内容や副作用の一覧表はファイルしている。服薬状況の確認は行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様、一人一人の生活歴や趣味などを把握し、生活の中で、それらを活かせるような役割分担をすることで楽しみや自信に繋がるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方には外に散歩に行ってもらっている。希望のない方も畑への水やりや収穫などに外出し気分転換を図るよう援助している。買物や外泊、旅行などにも行かされている。	日常は、天候に合わせ、近隣の散歩をしたり、ゴミ出しを手伝っている。希望者は、畑仕事で屋外に出て楽しんでいる。家族の協力で、買い物や旅行へも出かけ、年間行事では、車での外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理させて頂き、定期的にご家族に確認させて頂いている。また、希望時に一緒に買物支援に行きご本人が支払いされることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話がかかった時の支援や自己管理できるケイタイ電話は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を行い、季節感が分からない入居者様にも楽しんで頂けるよう工夫に努めている。共用空間についても、入居者様の状況に合わせ生活用品の配置を考え居心地良いようにしている。	共用の間は、天井が高く、空調設備や空気清浄機が整い、快適である。高台にあるホームの窓越しに、雄大な景色が見えている。季節の花や手づくり作品を飾り、居心地のよい空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が安心できる場所作りや一人になれる居場所の工夫に取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、その人の好みを生かした居場所作りをご家族と共に工夫している。	各居室の窓からは、山並みが見え、日の出、夕焼けを見ながら過ごすことができる。居室の扉には、利用者の表札を掲げ、使い慣れた椅子や鏡などを持ち込んでいる。家族の写真を飾り、安心できる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りの一つとして薬品庫やスタッフの通用口など、入居者様が出入りできない場所の扉は廊下の壁と同じ色調にしている。居室の入口は表札をつけてある。		